



健康百話

～今回はいとう小児科の伊藤先生にお話を伺いました。～

講師紹介

いとう小児科

院長
伊藤 卓夫先生
(いとう たくお)



プロフィール

いとう小児科 院長
医学博士
愛媛大学医学部非常勤講師
日本小児科学会認定小児科専門医



電話：089-969-7888

FAX：089-969-7887

住所：〒791-1115
愛媛県松山市土居町805-1

■診療科目-----小児科、アレルギー科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
午前 (8:30~12:30)	○	○	○	○	○	○	休	休
午後 (14:00~18:00)	○	○	○	休	○	○	休	休

※土曜は14:00~17:00まで

健康情報!

母乳と薬

母乳をあげているお母さんから、病気になった時に薬を飲んでいかとの相談をよく受けます。ほとんどの薬の説明書には、「この薬は母乳中に移行するので、授乳中はこの薬を飲んではいけません」という内容の文章が書かれています。それは、製薬会社が薬の授乳に及ぼす影響について国内で十分な調査をしておらず、厚労省から認可を得ることができなかったために、そのように書かれているのです。お母さんが飲んだ薬のいくらかは母乳に移行しますが、多くの薬ではお母さんが飲んだ量の1%未満しか移行しません。という訳で、大半の薬は授乳中も飲んで大丈夫なのです。

授乳中に飲んではいけない薬として、抗がん剤、免疫を抑える薬、向精神薬、放射性薬物や母乳を止める作用がある一部のホルモン剤などがありますが、これらは特殊な薬のため、相談を受けることはありません。お母さん方からよく相談を受けるのは、風邪をひいた時の薬と花粉症の薬です。赤ちゃんにも使う抗生物質、解熱剤、咳止めの薬は問題なく飲むことができます。但し、鼻水や痒みを止める薬の一部には赤ちゃんに眠気をもたらすものがあるため、注意が必要です。最近開発された花粉症の薬は、眠気が少ないので授乳中に飲んでも大丈夫です。インフルエンザに使う薬や、ヘルペスができた時に使う薬も服用可能です。

ドラッグストアで販売されている薬については、一つの薬の中に多くの成分が入っていることと、風邪薬の中に赤ちゃんに眠気をもたらす成分が入っている場合があることから、飲むのを避けた方が無難です。

葉酸プラス

赤ちゃんのすこやかな発育に役立つ栄養素、葉酸400μgと鉄分が1日1粒(目安)で摂れます。胃を通過して腸で溶ける腸溶性コーティングなので、胃がムカつきにくく、ビタミン特有のにおいが気になりません。



乳酸菌プラス

有胞子性乳酸菌を採用。胃酸にも負けず、生きたまま腸まで届いて活発に働きます。乳酸菌の栄養源になるオリゴ糖もプラス。低カロリーなので、体重制限中の方でも安心。着色料・香料・保存料不使用。



育児パワープラス

授乳中に不足しがちな栄養補給に。つい頑張りがちなこの時期にママの元気をサポートするサプリメントです。葉酸など7種のビタミンB群と、不足しがちなカルシウム・ビタミンCをバランスよく配合。コラーゲンもプラスしました。とりすぎのないよう考えた処方です。[栄養機能食品]



※店舗によっては一部商品の取り扱いがない場合がございます。